

氏名 長 尾 卓 夫

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位 授与 番号 乙 第 1143 号

学位授与の日付 昭和55年 9 月30日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 遅発性ジスキネジアのアミン代謝

第 1 編：遅発性ジスキネジア及び薬剤性振戦を伴う患者の髄液アミン代謝物質と環状ヌクレオチド

第 2 編：遅発性ジスキネジア患者のアミン代謝

—oxypertine及びhydroxyzine pamoate の効果より—

論 文 審 査 委 員 教授 森 昭胤 教授 庄盛 敏廉 教授 水原 舜爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

抗精神病薬の長期投与でおこる遅発性ジスキネジアの病因は、ドーパミン系機能亢進、コリン系機能低下といわれているが、十分に明らかではない。そこで遅発性ジスキネジアに有効とされる薬物負荷の前後において髄液内アミン代謝物質（HVA, MHPG, 5HIAA）と cyclic AMP, cyclic GMP を測定し検討した。

遅発性ジスキネジア患者は対照患者といづれの物質も差はなかったが HVA は両者共、正常対照者に比し高値であり対照患者でもジスキネジアの準備状態にあると考えられた。Sodium valpoate, cyproheptadine 投与で、HVA 低下と cyclic GMP 上昇がみられドーパミン系、コリン系のバランスを是正する方向と考えた。

また、probenecid 法によっても oxypertine 投与で HVA 減少を示し、hydroxyzine 投与でもジスキネジア改善例は HVA 減少を示し、遅発性ジスキネジアの基盤にはドーパミン機能亢進があると推論した。投与薬物の薬理作用との関係からドーパミン系と他の神経伝達系との相互関係が重要と考えた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

遅発性ジスキネジア患者に種々の治療薬を投与し、髄液内アミン代謝産物や cyclic nucleotides の変化を調べた結果、本症の発症の基盤におけるドーパミンの役割などについて重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。